半導体漫遊記 ㉙

湯之上隆

コンビニが24時間見直しへ

工場停止のルネサスは学べ

コンビニの24時間営業が見直されるかもしれない。大阪にあるセブンイレブンのフランチャイズ店が、人材を確保できないなどの理由で短縮営業を行ったところ、本社から契約解除と1700万円の違約金の支払いを言い渡された。そのためコンビニオーナーらで作る「コンビニ加盟店ユニオン」は2月27日、セブンイレブン・ジャパン本社に団体交渉の申し入れを行った。

その結果セブンイレブンでは直営店10店舗で、営業時間を午前7時～午後11時とする実験を開始した。もしかしたら社名本来の営業時間に戻るかもしれない。またファミリーマートでも、フランチャイズ店約270店舗で時短営業の実験を行う模様である。

このコンビニの時短営業実験から、前代未聞のルネサスの工場停止を連想した。ルネサスの呉文精CEOは3月29日に記者会見し、国内前工程主要6工場を4～6月ごろに1カ月弱停止し、7月以降さらに最大2カ月程度停止すると発表した(日経新聞3月30日)。

筆者は、あちこちの媒体で「一度クリーンルームを止めると再立ち上げが大変である。1工場に数百台ある製造装置の再立ち上げも大変である。工場を止めたり再稼働したりするのは、従業員をいたずらに疲弊させるだけだ。工場の稼働率を落としてアイドリングさせておくべきだ」という主張をしたが、ルネサス経営幹部は「工場を止めた方が経済合理性がある」という方針を変える気配がない。

ルネサスの経営幹部は、コンビニがどのように時短営業をするかをよく考えてほしい。店を閉める午後11時～午前7時の間、冷蔵庫や冷凍庫の電源を落とすと思いますか？　もし電源を落としたら、どうなると思いますか？　商品は台無しになり、すぐに再稼働できるはずがないでしょう。

半導体の量産工場では、空気を循環させてフィルターで細かなパーティクルを除去し、一定の温度・湿度に保つ。各種の製造装置に必要な超純水も、フィルターを介して循環させている。そして数百台以上ある製造装置が、いつでもシリコンウエハを着工できるように準備を整えている。

これらの電源を落としてしまったら、どうなると思いますか？　そして再稼働するには、どのような手間ひまが必要になると思いますか？

茨城県つくば市の産業総合研究所(産総研)には、半導体先端テクロノジーズと呼ばれたコンソーシアムと、2002年に建設したスーパークリーンルーム(SCR)がある。今も細々と稼働しているが1年に1回1日、SCRの所有者である産総研が電力施設などの定期点検のためにクリーンルームを停止する。その際、停止の2週間前から準備に入り、1日停止した後クリーンルームの再稼働には約2週間の時間がかかるという。つまり、たった1日クリーンルームを止めるために、その前後で約1カ月もの時間を要するのである。加えて各種製造装置の再立ち上げの作業が必要となる。

ルネサスの経営幹部は机上の計算だけで、量産工場の稼働には電力や水などに何億円もかかるから止めてしまえと判断しているのだろう。それは愚策中の愚策であると言わざるを得ない。

(微細加工研究所・所長)

工場停止を発表するルネサスエレクトロニクスの呉文精CEO

24時間営業を見直すコンビニ